

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2008年12月調査結果 -



2008年12月26日

< 結果のポイント >

12月の全産業合計の業況DIは 70.2 と、1989年4月の調査開始以来、最悪の水準となった。また、全産業合計の売上DI、採算DI、資金繰りDIも調査開始以来最悪の水準。

業種別では、米国金融危機や世界経済の減速に伴う受注の急激な減少の影響により、特に製造業の落ち込みが激しい。製造業の業況DIは、自動車の著しい販売不振などが影響し、調査開始以来、最悪の水準。地域別には、北海道・東北の悪化が顕著。

さらに、先行きへの不安から、消費マインドの冷え込みに伴う売上の大幅な減少に加え、今後は更なる売上の悪化を懸念する声も多い。

また、受注や売上の低迷に伴う採算悪化などの影響により、倒産・廃業が増加、従業員DIは 16.3 と過剰感が大幅に強まっており、03年3月以来の水準。特に受注の減少が顕著な製造業の大幅な悪化が目立つ。

----- 調査要領 -----

調査期間 2008年12月15日～19日

調査対象 全国の404商工会議所が2577業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：381 製造業：615 卸売業：235

小売業：736 サービス業：610

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策部 TEL:03-3283-7836

E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html

業況D Iは、1989年4月の調査開始以来、最悪の水準

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（66.7）よりマイナス幅が3.5ポイント拡大して70.2となり、89年4月の調査開始以来最悪の水準となった。

産業別の業況D Iは、卸売でマイナス幅が横ばい、他の4業種は拡大した。中でも、製造、サービスは調査開始以来最悪の水準。

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や、消費マインドの冷え込みにより、収益面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や、更なる売上の減少、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声が非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月から大幅に強まっており、今後は倒産・廃業の増加を懸念する声が各業種から寄せられている。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】～資金繰りD Iは調査開始以来最悪の水準～

- ・「受注、収益とも好転の兆しは全くなく、従業員も過剰状態」（一般工事業）
- ・「住宅関連の受注の減少が続く一方、金融機関の貸し渋りにより資金繰りが悪化」（一般工事業）
- ・「材料価格の高騰は落ち着いてきたが、依然として公共・民間工事ともに低迷し、収益が減少」（建築工事業）

【製造業】～業況D I、採算D Iは調査開始以来最悪の水準～

- ・「百貨店、量販店ともに売上が低調なため、発注量が少なく、収益は前年に比べ大幅に減少」（織物製造業）
- ・「急激な業況悪化の影響は大きく、今後もこの状況が続くと人員削減も必要な状況」（産業用電気機械製造業）
- ・「急速な受注の減少から経営が圧迫され、回復の目途も立たない状況」（自動車・附属品製造業）

【卸売業】～売上D I、採算D Iは02年2月以来の低水準～

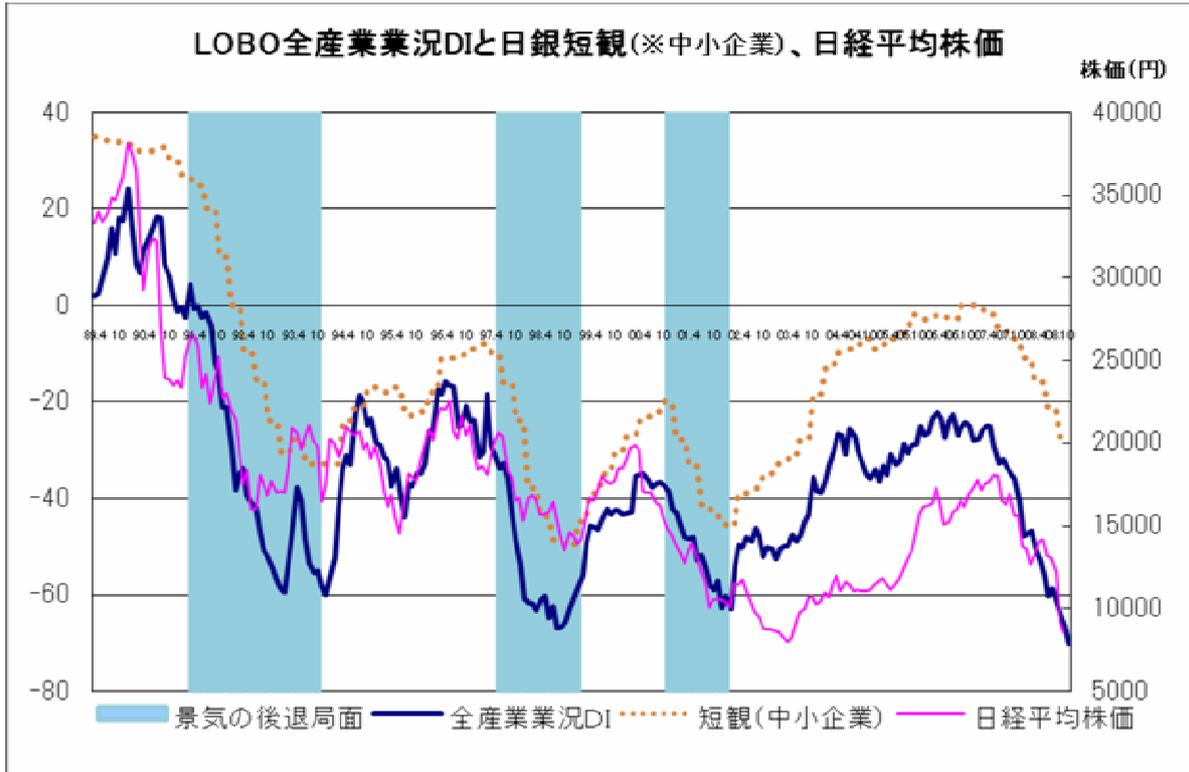
- ・「円高の影響による輸出の減少に加え、資材価格の高止まりが採算に悪影響」（農畜産水産物卸売業）
- ・「建築関係は工事量が少なく、先行きが不安」（建築材料卸売業）
- ・「お歳暮向けの高級品の売上が低迷し、収益が減少」（食料・飲料卸売業）

【小売業】～採算D Iは98年3月以来の水準～

- ・「不況感から消費者の生活防衛意識が高まり、低価格志向が顕著」（百貨店）
- ・「売上が減少し、個人商店の廃業が相次いでいる」（その他の小売業）
- ・「厳しかった昨年に比べ、売上は3割程度。特に高額商品の売上が低迷」（商店街）

【サービス業】～業況、売上、採算、資金繰りD Iは調査開始以来最悪の水準～

- ・「食材・包装容器の高騰は一段落したが、来店者数の減少が続く、今後も厳しい状況となる見込み」（喫茶店）
- ・「自動車関連企業の低迷に伴い会議・宿泊が減少し、売上に大きく影響」（旅館）
- ・「売上の減少は今まで経験したことがないほど厳しい」（理容業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（66.7）よりマイナス幅が3.5ポイント拡大して70.2となり、89年4月の調査開始以来最悪の水準となった。

産業別にみると、D I 値のマイナス幅は卸売で横ばい、他の4業種では拡大した。中でも、製造、サービスは調査開始以来最悪の水準。

向こう3カ月（09年1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が71.6と、昨年同時期の先行き見通し（39.9）に比べて31ポイント以上悪化している。

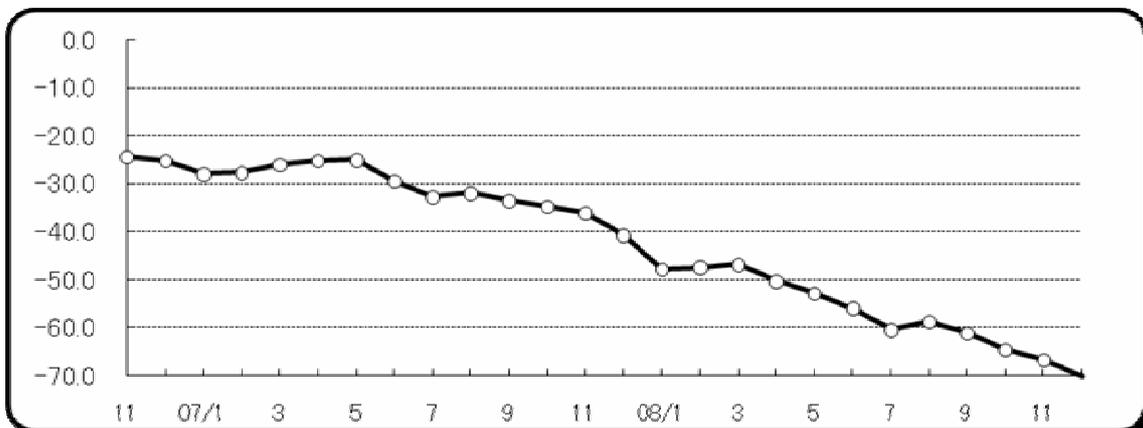
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、23ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	60.5	58.8	61.2	64.6	66.7	70.2	71.6 (39.9)
建設	73.2	71.4	70.8	71.1	70.0	74.2	75.3 (52.0)
製造	61.3	55.4	59.8	59.8	68.3	72.7	73.9 (34.5)
卸売	64.5	64.7	59.7	63.8	67.6	67.6	69.7 (41.7)
小売	54.4	58.9	59.2	64.4	64.8	69.2	69.4 (38.0)
サービス	56.8	51.4	59.7	65.9	64.6	67.3	70.2 (39.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年12月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が6.6ポイント拡大して60.4となり、9カ月連続で悪化した（調査開始以来最悪の水準である98年10月と同水準）。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でも、小売は98年10月以来の低水準、サービスは調査開始以来最悪の水準。

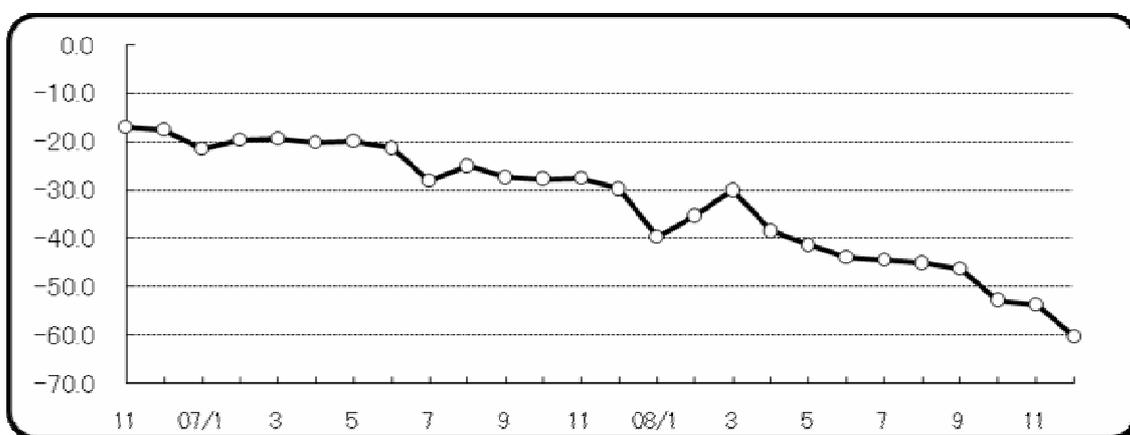
向こう3カ月（09年1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が65.7と、昨年同時期の先行き見通し（31.0）に比べ34ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で20ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	44.6	45.2	46.5	52.9	53.8	60.4	65.7 (31.0)
建設	62.6	58.9	63.1	65.3	62.8	63.1	71.1 (50.6)
製造	39.7	41.0	41.6	47.7	51.2	59.2	64.5 (24.8)
卸売	42.6	46.0	43.6	42.3	50.0	60.0	63.9 (27.7)
小売	39.9	47.3	44.0	55.0	53.9	58.7	62.6 (29.3)
サービス	44.5	37.6	45.4	52.0	52.0	61.9	67.7 (28.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が4.7ポイント拡大して64.4となり、9カ月連続で悪化した（調査開始以来最悪の水準）。産業別に見ると、D I値のマイナス幅は建設で縮小したものの、他の4業種では拡大した。中でも、製造、サービスは調査開始以来最悪の水準。

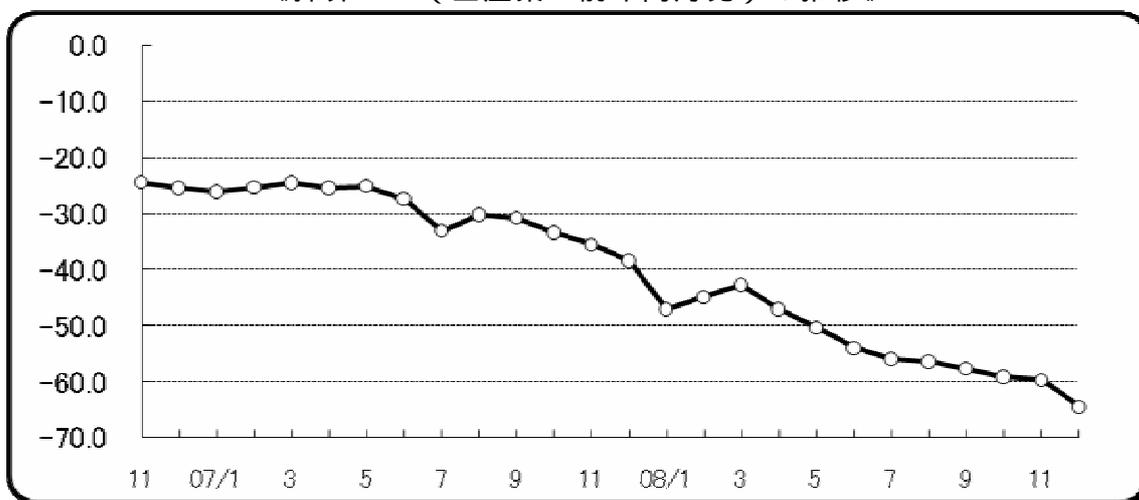
向こう3カ月（09年1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が65.6と、昨年同時期の先行き見通し（38.3）に比べて27ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で13ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I（前年同月比）の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	55.9	56.4	57.7	59.1	59.7	64.4	65.6 (38.3)
建設	70.1	70.4	70.8	70.1	67.5	66.4	69.7 (56.3)
製造	58.1	59.0	60.9	60.3	62.4	68.3	67.5 (37.6)
卸売	49.0	55.3	51.7	50.3	57.7	57.9	63.9 (34.2)
小売	46.8	49.2	51.5	53.9	55.1	61.4	61.0 (32.0)
サービス	57.9	53.0	55.7	60.4	58.2	65.3	67.1 (36.9)

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	37.8	37.2	37.9	41.3	41.5	45.9	48.6 (25.6)
建設	52.3	56.3	52.0	55.0	55.2	56.8	55.3 (37.7)
製造	36.0	37.7	38.2	43.8	44.9	50.1	55.9 (21.0)
卸売	32.2	32.2	30.5	32.1	37.0	42.3	46.7 (23.6)
小売	31.2	32.7	30.8	35.1	34.9	38.2	37.6 (21.9)
サービス	39.9	30.5	39.6	40.2	38.1	44.3	49.7 (27.8)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは4カ月連続で悪化した(調査開始以来最悪の水準)。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でも、建設、小売、サービスは最悪の水準。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	59.4	60.9	58.0	55.1	49.6	40.4	27.2 (43.3)
建設	70.4	71.3	62.5	61.4	55.7	46.6	27.9 (47.1)
製造	65.4	70.4	64.2	62.5	54.7	42.4	21.9 (51.2)
卸売	51.0	46.7	45.6	45.0	36.6	29.2	20.8 (40.4)
小売	52.8	53.7	54.6	50.0	44.9	35.5	27.9 (38.3)
サービス	57.0	58.4	57.7	53.4	51.2	44.5	33.9 (39.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは40.4となり、上昇感が4カ月連続で弱まった。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	9.0	8.1	7.6	11.1	10.8	16.3	20.3 (2.7)
建設	28.0	28.6	25.8	28.6	28.7	30.3	35.2 (17.1)
製造	9.8	7.7	8.0	13.4	13.8	22.9	28.8 (0.2)
卸売	13.5	14.0	14.3	13.4	11.3	15.3	19.4 (7.7)
小売	2.6	1.4	0.5	3.3	3.5	8.5	10.2 (2.0)
サービス	1.3	0.0	2.3	5.2	4.1	10.1	14.0 (0.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の過剰感は2カ月ぶりに強まり、16.3となった。
(03年3月以来の水準)産業別にみても、D I値はすべての業種で強まった。中でも、製造は02年10月以来、卸売、サービスは03年3月以来の低水準。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、製造、小売で過剰に転じ、他の3業種は過剰感が強まる見通し。

【2008年12月の景気キーワード】

受注の大幅な減少

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少、売上の悪化を訴える声が寄せられている。建設業からは、「景気悪化のため、顧客の事業計画が中止となるなど、収益の確保が困難な状況」(米沢・建築工事業)「住宅関連の受注が少なく、例年に比べて売上が減少」(さいたま・積石工事業)、製造業からは、「景気悪化に伴う自動車生産台数の大幅な減少により、自動車関連事業の受注高も軒並み減少傾向」(米沢・通信機械器具製造業)「金融不安の影響で受注のキャンセルが発生するなど、特に輸出向けの売上確保が困難」(横浜・他の輸送用機械製造業)などの声が寄せられている。

消費マインドの冷え込み

食料品をはじめとする諸物価の高騰や、米国金融危機の影響に伴う今後への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「お歳暮商戦の売上也苦戦しており、収益の確保が一層困難な状況」(盛岡・百貨店)「来客数は前年同様だが、一人当たりの購入点数・単価は減少」(渋川・百貨店)「賞与月にも関わらず、年末イベントは全く盛り上がりせず、業況は一段と悪化」(柏・商店街)、サービス業からは、「忘年会の激減や低価格のチェーン店の進出により、売上が悪化」(館山・食堂・レストラン)「円高の影響で、外国人客の予約のキャンセルが増加傾向」(京都・旅館)といった声がある。

先行き不安感の拡大

こうした売上の低迷に伴う業況の悪化などから、先行きへの不安を訴える声も寄せられている。製造業からは、「仕事量の大幅な減少に加え、原材料費も高止まりで来年は営業を続けていくことが困難な状況」(水戸・金属加工機械製造業)「自動車メーカーの大幅な減産計画により受注の減少は明白で、今後の見通しも不透明」(佐野・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、小売業からは、「県内製造業の従業員削減に伴い、消費低迷などの悪影響を懸念」(宇都宮・百貨店)「12月に入っても商店街の人通りは少なく、年末年始も厳しい状況が予想されるなど、先行きへの期待感はない」(豊橋・商店街)、サービス業からは、「11月下旬から宿泊の予約が急激に減少し、今後の売上は前年を大きく下回る見通し」(札幌・旅館)との声もある。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年10月	先行き不安感の拡大	仕入コストの高止まり	消費マインドの冷え込み
11月	先行き不安感の拡大	仕入コストの高止まり	消費マインドの冷え込み
12月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況D I、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、採算D Iは3カ月連続で縮小した。「工事発注の減少が続く一方、低価格の受注しか確保できず、採算は悪化」(一般工事業)、「マンション関連の売上が悪化し、経営は深刻な状況」(土木工事業)、「工事の減少により、特に下請けは負債が増加するなど最悪の状況」、「受注価格の低下と原料費の高止まりにより、採算面は厳しい状況」(ともに建築工事業)、「金融業界の状況悪化に伴い、地方銀行の中小企業への貸し渋りが広がる」(電気工事)といった声が寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D I、採算D Iは2カ月連続、売上D Iは9カ月連続でマイナス幅が拡大した。「店頭商品の販売不振に伴い、メーカーからの受注の減少が顕著」(繊維製品製造業)、「住宅着工の減少で収益確保が厳しい状況」(製材木製品製造業)、「自動車業界の落ち込みで売上が大幅に減少し、資金不足も深刻な状況」(プラスチック製造業)、「一部の原材料価格は下落したものの、全体的に高騰が続いており、採算面に悪影響」(金物類製造業)、「受注の減少に伴い資金繰りが悪化し、来月以降、倒産の発生を懸念」(金属加工機械製造業)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況D Iは横ばい、売上D I、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上の減少が続く、今後も回復する見込みがない」(各種商品卸売業)、「消費の低迷が続く中、人員削減も発生」(衣服・日用品卸売業)、「販売先から値下げ要請が強まっているが、円高による原料価格の下落には至っておらず、厳しい状況」、「消費者は食費に対する支出を控える傾向にあり、年末の売上は予想以上に低調」、「暖冬の影響により、鍋物食材の売上が低迷」(すべて農畜産水産物卸売業)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D I、採算D Iは5カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「宝石や美術品などの高級品や、衣料品の売上減少が顕著」、「売上が低迷し、従業員の削減を検討している」(ともに百貨店)、「原料価格の高騰時に仕入れた商品の在庫が多く、収益確保は厳しい状況」、「ガソリン価格の下落で車で来街者数の増加を期待したが、良い影響は見られない」、「年末商戦は過去にないほど売上が低迷。空き店舗も増加するなど最悪の状況」(すべて商店街)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況D I、売上D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「景気の悪化に伴う製造業の減産により、物流への悪影響も発生」(運送業)、「消費者の低料金志向に伴う価格競争の激化により、収益確保は厳しい状況」(旅館)、「年末年始の売上増加も期待できず、来年以降は廃業・倒産が増加する見込み」(一般飲食店)、「製造業を中心とした顧客の経営悪化に伴い、受注が減少し、収益の減少は避けられない状況」(建物サービス)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、中国、四国ではマイナス幅が縮小し、九州ではほぼ横ばいだったものの、他の5ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

なお、業況D Iが大幅に悪化した北海道・東北は、建設業を中心とした受注の減少に伴う収益の低下や、外食産業の低迷に伴う食料品等の売上の悪化が、特に影響したものと見られる。また、北海道は国内外問わず観光客の減少も影響したと思われる。

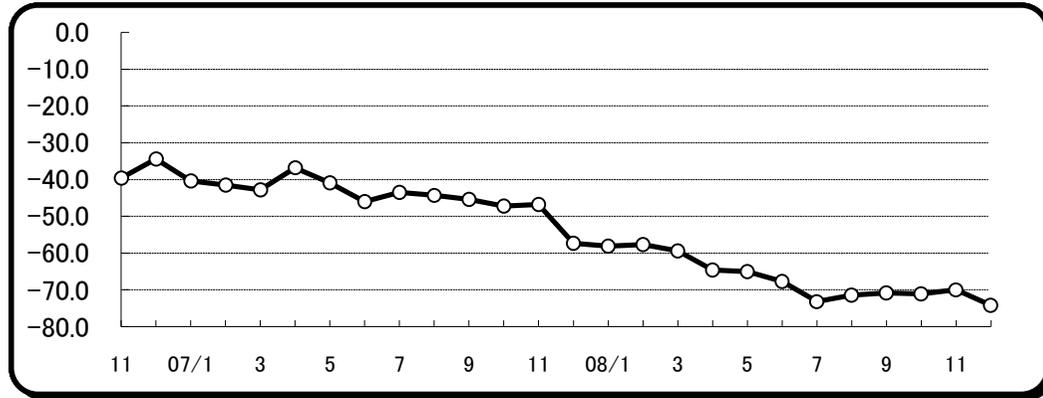
ブロック別の向こう3カ月(09年1月~3月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

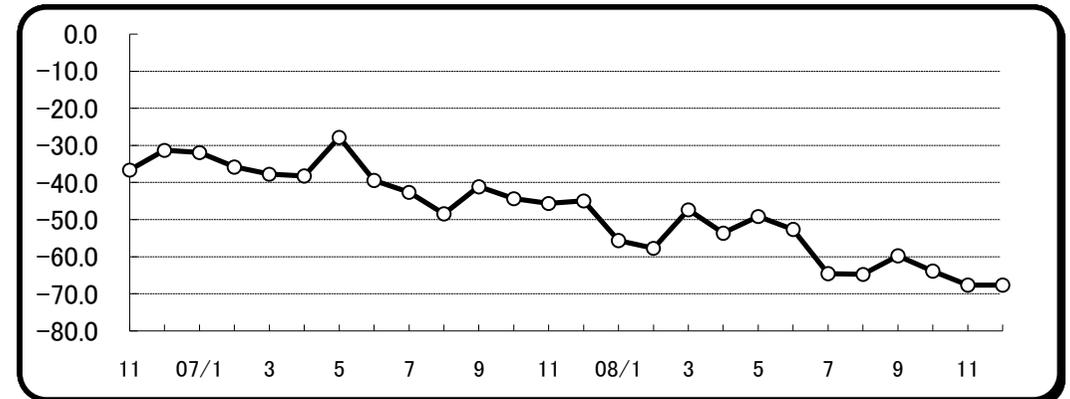
	08年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全 国	60.5	58.8	61.2	64.6	66.7	70.2	71.6 (39.9)
北 海 道	64.1	55.2	56.1	57.6	58.8	70.5	72.6 (37.9)
東 北	65.7	66.7	68.7	63.0	61.0	78.2	81.0 (45.4)
北陸信越	54.1	54.7	52.7	64.9	69.7	67.6	72.1 (40.0)
関 東	61.9	59.2	60.7	66.4	66.2	71.1	72.2 (36.9)
東 海	56.0	54.4	58.9	63.6	63.4	67.6	71.8 (37.9)
近 畿	64.3	64.5	69.4	67.5	74.4	76.1	68.3 (43.9)
中 国	59.2	55.1	60.0	64.9	74.8	73.3	71.8 (42.6)
四 国	62.4	56.9	60.6	64.3	60.5	55.3	67.3 (38.4)
九 州	55.0	58.6	60.3	63.4	66.2	65.8	67.7 (39.6)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

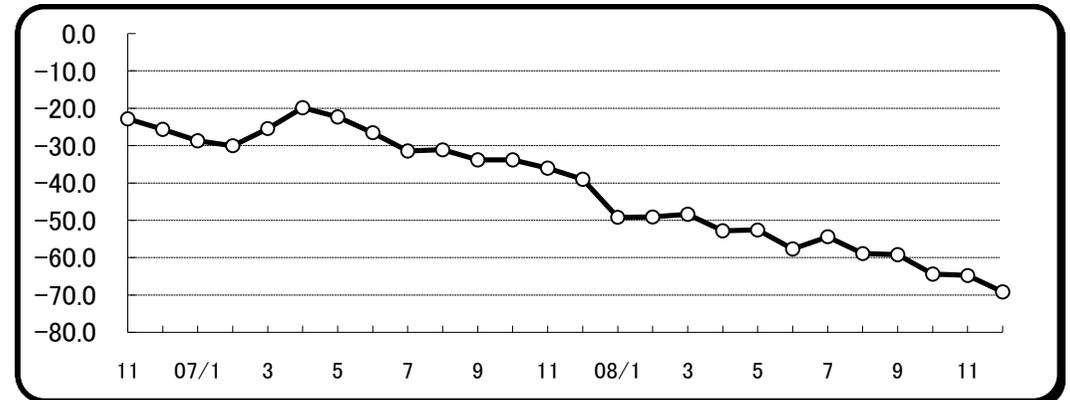
建設業



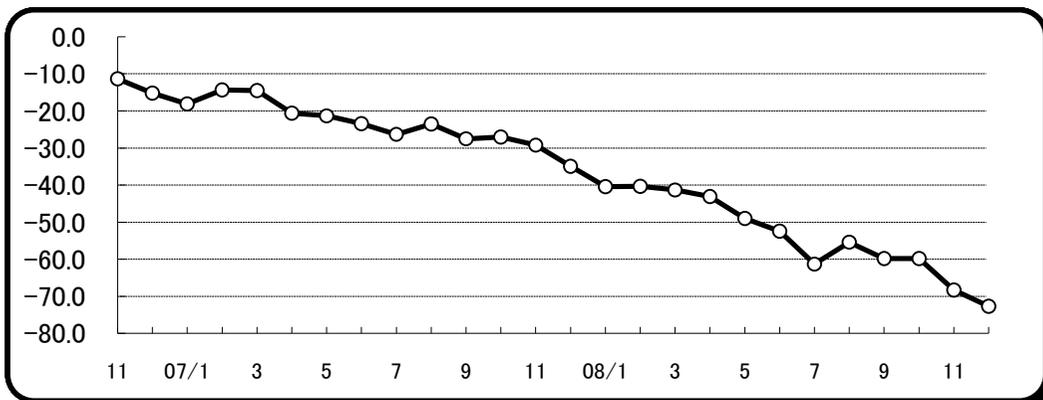
卸売業



小売業



製造業



サービス業

